SHIPMAN 事後評価報告書

1. 基本情報

（1） 有限会社 SHIPMAN
（2） 障害児等の体験格差解消事業
（3） 公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
（4） 障がい児やひとり親家庭のための運動支援事業
（5） 事業の種類
草の根活動支援事業
（6） 2020 年 6 月～2023 年 3 月
（7） 静岡県西部

2. 事業概要

●TOC

① 事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ

社会的に「自然体験」の機会にチャレンジが困難な、障がいを持つ児童や経済的に困難な環境の児童等に対し、現在我が国の社会教育施設や自然体験活動団体は、先進国に比べて門戸が狭い。本計画の実施に当たり中長期アウトカムはこうした現実を打破していく事と言える。誰もが環境に関わりなく「体験」ができる施設としていく事が問題解決に向けた旗振りになろう。

●中長期アウトカム

指導スキルや安全管理体制の向上により、水辺/海洋活動等の自然体験の敷居が下がり、特別支援学校およびは発達支援級の児童・生徒を対象とした活動プログラムの提供が増える。子ども達が積極的に自然体験活動に取り組むことによって、個々に必要な合理的配慮の基に、規律や協力を体験的に学びながら子ども達の成長を促し、自分の力を最大限に発揮できる施設となる。

連携協力団体、周辺地域、学校等とのネットワークが深まり、協力者が増え様々な情報交換を行うことにより、静岡県西部地区において地域ぐるみでの継続した支援を行うことができる。

●短期アウトカム

1、特別支援学校をはじめとする発達支援学級の児童及び生徒など、身体や心身に障がいがある子ども達が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。

2、支援を必要とする子どもや団体指導者、保護者等が、積極的に水辺/海洋活動の自然体験プログラムを日常的に参加させる状態となり、水辺/海洋活動の自然体験を団体の日常的な活動となる。

3、当団体のスキルアップや連携協力団体のコミュニケーションの深まりと基盤の強化が図られることにより、「体験格差」解消に向けた公益活動活性化される。

4、新型コロナウイルス感染症予防対策の拡充により、参加者や保護者・スタッフ等の感染予防意識や対策が深まることにより、新たな事業様式が見え始めている状態となる。

②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）

静岡県西部地区において特別支援学校およびは発達支援級の児童・生徒、経済的困窮など家庭に課題を抱える子どもを対象に水辺/海洋活動等の自然体験が推進され、個々に必要な合理的配慮の基に安全な活動を通して、規律や協力を体験的に学びながら子ども達の成長を促し、自分の力を最大限に発揮できる支援の環境づくりのモデル施設となることを目指す。

③出口戦略

対象地域内特別支援学校の当施設での体験活動実施 100％を目指し、団体指導者や職員、家族と連携・協力していく。また、特別支援学校に限らず、子ども会・各青少年団体（ボーイスカウト・海洋少年団等）と協力し、海洋体験が広く普及する事を目指す。

3. 事後評価実施概要

（１） 実施概要

活動を行った団体へは独自のアンケートや聞き取り調査を行い、評価を行った。
聞き取りでは、活動を行う前の学校での態度が活動後と大きく変わり、個人の考え方や、態度などに現れた、などという意見もあった。
独自のアンケートでは活動の満足度を調査したが、ほぼ９割の団体が活動への満足度や、達成度を感じてもらうことができた。

（２） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

内部　評価担当者　城田守（SHIPMAN　代表取締役）
　　他所へ聞き取り調査などをし、内部と比較し評価を取りまとめていた。
外部　自己評価としたため特に外部に依頼していない

4. 事業の実績

４-１インプット（主要なものを記載）

（１） 人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）

職員１２名。海洋活動時の指導、操船、艇長など。

（２） 資機材（主要なもの）

・浮き桟橋を購入。浮き桟橋があることで潮汐に関わらず、体の不自由な方でも船の乗下船が楽になる。
・ボッチャ　　荒天時等にも対応できるプログラムの一環として購入。
・タンデム型自転車　　冬季の自然体験活動の一環として自転車を利用したプログラム実施のため。

（３） 経費実績　助成金の合計（円）

① 契約当初の計画金額　通常枠 2,198,000 円(評価関連経費含む)、
　コロナ支援枠 810,000 円　　合計 3,080,000 円
② 実際に投入した金額　3,080,000 円

（４） 自己資金（円）

① 契約当初の自己資金の計画金額　521,000 円
② 実際に投入した自己資金の金額と種類　521,000 円（見込）
③ 資金調達で工夫した点
　外部から資金を調達することがないので、助成金の中で優先度を決めて活動に充てるよう工夫した。

4 - 2 活動とアウトプットの実績

（1） 主な活動

特別支援学校や、障がい者施設利用団体への海洋活動の提供。水辺活動（いかだ、かに釣り、湖岸観察）の提供。

（2） アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載項目】

① アウトプット
② 指標
③ 初期値
④ 目標値
⑤ 目標達成時期（事業計画書に記載した時期）

(3) アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
特別支援学校および発達支援級の児童・生徒が、水辺/海洋活動の自然体験に参加できる状態となる。	①水辺の自然体験に参加した対象となる子どもの数②水辺/海洋活動の自然体験に協力したサポートの人数③活動に参加した対象者及び保護者の満足度	①利用団体で 100 人②地域（学校）で 20 人③満足度調査	①地域全体で 150 人（初期値から 1.5 倍）②地域全体で 60 人（初期値から 1.5 倍）③満足度調査比較	2022 年 12 月
団体指導者等が水辺/海洋活動の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	団体指導者の満足度	満足度に関するアンケート調査の実施	満足度調査比較（数値化による確認）満足度 90%以上を目指す。目標と課題の抽出。	2022 年 12 月
支援を必要とする子どもの保護者等が、水辺/海洋活動の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	団体指導者の満足度	満足度調査	満足度調査比較	2022 年 12 月
学校や団体等が、水辺/海洋活動等の自然体験に連携・協力・支援する状態となり、継続的に活動できる状態となる。	①利用団体等の数	①地域全体で 4 団体/年	①地域全体で 12 団体	2022 年 12 月
当団体と連携協力団体とのネットワークが深まり、様々な情報交換が行われる。	①利用団体間や連携協力団体と定期的なコミュニケーションがある団体の数②地域の連携協力団体等と競技する会議や訓練、研修等の回数	①現状の把握②現状の把握（初期値）	①当団体で協力団体数を設定②当団体で回数を設定	2022 年 12 月
新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、特別支援学校等が過去にない方法で安全に水辺及び陸	①最新の器材・設備の導入及び活用し、さらに三密対策等の安全対策を講じた水辺及び陸上の	①まずは所員にて最新ハーバー設備取り扱いを周知検証する。初年度 5 回。その	①新型コロナウイルス感染症安全対策を踏まえ、初期状態からマニュアル内容を活動団	2021 年 7 月

上の自然体験に参加できる状態となる。	事業が実施できている状態	うえで最良の方法をマニュアル化する。	体指導者と共有し、指導者にも役割分担を明確化しいっしょに取り組んでいただく。6回目以降通常活動時はすべて。	

⑥ 実績値

アウトプット（資金的支援）	目標値　／　目標状態	実績値
特別支援学校および発達支援級の児童・生徒が、水辺/海洋活動の自然体験に参加できる状態となる。	①地域全体で 150 人（初期値から 1.5 倍） ②地域全体で 60 人（初期値から 1.5 倍） ③満足度調査比較	①コロナが落ち着いてきて、地域全体で 150 人を超えている（２３０人）。今までは受付の時点では健常児や支援時の区分、特別支援学級の内訳等が分からなかったが、受付のやり方が昨年度から変更になり、発達学級や生活保護家庭などの、助成金対象者がより明確になり 2021 年度より正確な人数が分かるようになった。 ②2021 年から1人増え、実数は6人となった。延べは 200 人を超えるが、実数を増やせるように今後も職員研修などを行って安全に活動を行えるようにし、増やしていきたい。 ③対象者及び保護者への満足度調査については、B&G 財団のアンケート調査を依頼したが、学校単位で参加することが多いためなかなか回答をもらうことが難しかった。 そのため独自アンケートを行った。 ※独自アンケート(欄外にまとめを掲載)では、視覚障害特別支援学校の児童がハンザヨットの体験を行ったので教員から次のコメントをいただいた。 「児童が自分の手足でヨットを確かめながら、一人で乗船したことで達成感が持てた。また自分でヨットを操船したことで、より風や揺れを感じたようで楽しさが増していたようだ。
団体指導者等が水辺/海洋活動の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	満足度調査比較（数値化による確認） 満足度 90％以上を目指す。目標と課題の抽出。	独自アンケートにより、満足度調査比較 90％以上を達成した。 ※目標（団体の活動達成）と課題（活動時のヒヤリハットや、安全対策）については、アンケートから抽出した。

支援を必要とする子どもの保護者等が、水辺/海洋活動の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	満足度調査比較	保護者への満足度調査については、B&G 財団のアンケート調査を依頼したが、学校単位で参加することが多いためなかなか回答をもらうことが難しかった。 学校として来場しているため、保護者の随行はなく、独自アンケートも取れなかった。
学校や団体等が、水辺/海洋活動等の自然体験に連携・協力・支援する状態となり、継続的に活動できる状態となる。	①地域全体で 12 団体	地域全体で１２団体以上を達成した。（2022 年度は学校・団体で 57 団体） おれんぢ教室・ボーイスカウト浜松１９団・放課後デイサービススカーラりーど・NPO 法人ルリアン・三ヶ日ボッチャなど
当団体と連携協力団体とのネットワークが深まり、様々な情報交換が行われる。	①当団体で協力団体数を設定 ②当団体で回数を設定	①　5 団体 セイラビリティ伊勢に加え、不登校児童の受け入れ先である団体（おれんぢ教室）と連携し、ボーイスカウト浜松 19 団（カブ隊）,磐田クリークサウンドさん、浜松市教育委員会（校長会で活動 PR の場を提供いただける）など 5 団体とのパイプを太くしていきたい。 ②コロナで大会などが中止となり、研修に参加できる機会が少なかった。11 月にハンザ大会研修へ参加。
新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、特別支援学校等が過去にない方法で安全に水辺及び陸上の自然体験に参加できる状態となる。	①新型コロナウイルス感染症安全対策を踏まえ、初期状態からマニュアル内容を活動団体指導者と共有し、指導者にも役割分担を明確化しいっしょに取り組んでいただく。6 回目以降通常活動時はすべて。	新型コロナウイルス感染症安全対策のためのマニュアルを作成し、活動団体と共有することができた。また、コロナ対策のための器材を休眠預金事業の助成金を活用し購入したことで三密を避けた活動を実施することができた。そのため本アウトプットを達成したと考えている。

4 - 3

4-3 外部との連携の実績

特別支援学校、車いす利用、不登校など様々な理由から自然体験活動のチャンスに恵まれない少年少女がいて、昨今の社会情勢からその数は減るどころか増加の一途を辿っている。浜松市でも特別支学校数は新設校も誕生しているが決して十分な対応状況とは言えない。不登校児童も年々増加の一途で、市内の対応施設 9 か所では 1200 名以上の対象児童を受け入れる事は困難な状況である。教職員の働き方改革も反映して、義務教育課程の部活は学校から消え校外団体に委ねられていく昨今で、まさに体験機会の少ない児童にとっては、ますます活動のチャンスが減少しているのが現実である。
今回の休眠預金活用活動の趣旨を実践していく事は、この 3 年間だけではなく、今後も取り組むべき重要テーマである。具体的に連携している団体は次の通りであるが、活動中にご縁のできた各団体（ステークホルダー）との連携を更に継続強化する事に加え、既存少年少女団体の障がい児童受け入れは活動主旨であるが実際は出来ていない例もあり、この辺の

受け入れや具体的な活動をいっしょに考え、具体的にスケジュール化していく。

例・・ボーイスカウトには本来「介護章」の取り組みがあるが、現場ではなかなか具現化しない。
連携団体の「ボーイスカウト浜松 19 団カブ隊」では、令和 5 年度プログラムに「セーリング
クルーザー体験」を組み、洋上クルーズ、桟橋係留泊などのメニューを導入し、運動の苦手な
子ども達も受け入れの Try をする。

例・・令和 4 年 11 月に発足した浜名湖海洋少年団も浜名湖ならではの活動として、他団には無い浜
名湖の環境 SDGs 活動と障がい児童受け入れの海洋活動（カヌー・ローイング）を開始する。

例・・ブラインドセーリング協会と連携し、視覚障がいの子ども達向け試乗会（体験会）を積極的
に実施する
MJC(マリンジャーナリスト会議）主催の７２０キャンペーン「Kid,s to the Sea」にもエントリーする。

上記の計画は、体験格差解消対策のひとつの選択肢として、参加する、しないは子ども達の
選択でいいと考える。我々はこの選択肢（チャンス）を如何に作るか、増やすかで良いのである。
市民参加を文部科学省も唱えるが（総合学習やコミュニティースクール等）子ども達にとっては
この選択肢は顕著に少ないように思える。特に海洋活動は典型である。

コレクティブインパクトの形成

浜名湖では令和 3 年から愛犬家のマリンスポーツ大会企画が予定され、令和 5 年 5 月に開催の予定
である。令和 3 年 12 月に浜松市役所振興部にて主催者からの説明会があった。初めての企画で
スポーツ団体、観光団体、市議会議員など企画に対し半信半疑的な意識も隠せない状況であった
が、会を重ねるうち、会場地域住民の理解、人間社会における犬の存在・役割、特に盲導犬や介
助犬に見られる障がい者社会での存在、介助の必要な青少年の存在に傾注できたなど、前例に拘る
体質や未知の企画に対する抵抗さえクリアすれば（時間を要すが）コレクティブインパクトは
具現化する。

例・・三ケ日に 3 年前にオープンした「ホテル・ザ・シーン」と令和 5 年度からドッグクルーズ
With KId.s 企画をスタートする。
まさに、「視覚障がいだから、ヨットなんて無理、カヌーなんて無理！」の固定観念を
打破する、「ワンちゃんもライフジャケット来て浜名湖にでるんだよ！」を子ども達に
見せてあげられる活動として期待している。
実際に、数年前は全盲の型と盲導犬によるボートクルーズも大好評だった。
これらの活動を、浜名湖海洋少年団も浜名湖ならではの活動として取り組んでいく。

浜松市にはビーチマリンスポーツ協議会があり、各種のマリンスポーツ団体が加盟している。本「休眠預金を活用した活動」の趣旨を横に広げ、マリン関係者が取り組む事例が増えるように努めていきます。

5. アウトカムの分析

5－1. アウトカムの達成度

（1）短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載項目】

① 短期アウトカム
② 指標
③ 初期値／初期状態
④ 目標値／目標状態
⑤ 目標達成時期

（2）短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
特別支援学校をはじめとする発達支援学級の児童及び生徒など、身体や心身に障がいがある子ども達が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。	①水辺/海洋活動等の自然体験の推進に取り組む児童や生徒の人数、学校や団体の数②新たに参加を希望する団体の数③子どもの活動に対する意識や行動の変容の向上率や満足度④水辺/海洋活動等の自然体験に対する指導者から見た子どもの意識や行動の変容向上率と満足度	①地域全体でのべ 100 人②地域全体で 4 団体③子どもの活動に対する意識調査④団体指導者から見た子どもの変化率と団体指導者の意識調査　※事前研修会参加（延べ 20 人/年）	①施設利用人数で 150 人(初期値から 1.5 倍）②海洋活動等実施団体数で 12 団体（初期値から 3 倍）③子どもの意識・行動の向上率のアップと満足度 90%以上④活動に係わる指導者の意識比較満足度 90%以上　※事前研修会参加（延べ 40 人/年）	2022 年 12 月
支援を必要とする子どもや団体指導者、保護者等が、積極的に水辺/海洋活動の自然体験プログラムを日常的に参加させる状態となり、水辺/海洋活動の自然体験を団体の日常的な活動となる。	①水辺の自然体験に継続して参加を希望する障害児等の保護者の人数 ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上など、意識・行動の変容の向上率 ③施設等のスタッフから見た子供の社会性の育成や自立心の向上など、意識・行動の変容の向上率	①地域全体で 100 人	①地域全体で 150 人（初期値から 1.5 倍）	2022 年 12 月
当団体のスキルアップや連携協力団体のコミュニケーションの深まりと基盤の強化が図られることにより、「体験格差」解消に向けた公益活動活性化される。	①安全に配慮された指導スキルを備えられたか②プログラムの有効性③当団体と地域連携基盤のつながりの質④新たな協力体制の構築数	①現状の把握課題の抽出と基盤の構築②現状の把握（初期値）③現状の把握（初期値）④現状の把握（初期値）	当団体と連携協力団体および活動参加者を含めた意見交換等の振返りや満足度等	2022 年 12 月

新型コロナウイルス感染症予防対策の拡充により、参加者や保護者・スタッフ等の感染予防意識や対策が深まることにより、新たな事業様式が見え始めている状態となる。	①新型コロナウイルス感染症予防を講じた新たな事業様式を実施した状態	①新型コロナウイルス感染症の安全対策のみに対応した状態	①新型コロナウイルス感染症の安全対策に創意工夫を加え効率的な事業を実施している状態	2021 年 7 月

⑥ アウトカム発現状況（実績）

事前評価時の短期アウトカム（変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください）

（2）短期アウトカム	目標値／目標状態	実績値
特別支援学校をはじめとする発達支援学級の児童及び生徒など、身体や心身に障がいがある子ども達が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。	①施設利用人数で 150 人(初期値から 1.5 倍) ②海洋活動等実施団体数で 12 団体（初期値から 3 倍） ③子どもの意識・行動の向上率のアップと満足度 90%以上 ④活動に係わる指導者の意識比較満足度 90%以上　※事前研修会参加（延べ 40 人/年）	①コロナが落ち着いてきて、地域全体で 150 人を超えている（２３０人）。受付のやり方が昨年度から変更になり、発達学級や生活保護家庭などの、助成金対象者がより明確になり昨年度より正確な人数が分かるようになった。 ②昨年から 1 人増え、実数は 6 人となった。延べは 200 人を超えるが、実数を増やせるように今後も研修などを行って増やしていきたい。→　団体数に変更 ③独自アンケートや関係者ヒアリングから、子どもの意識、行動の向上率を感じることができる。終了後のお礼の手紙などで、満足度が高かったことが伺われる。 ④対象者及び保護者への満足度調査については、B&G 財団のアンケート調査を依頼したが、学校単位で参加することが多いためなかなか回答をもらうことが難しかった。 そのため独自アンケートを行ったところ、事前事後の比較はできなかったが、指導者の満足度はほぼ 100%と非常に高かった。
支援を必要とする子どもや団体指導者、保護者等が、積極的に水辺/海洋活動の自然体験プログラムを日常的に参加させる状態となり、水辺/海洋活動の自然体験を団体の日常的な活動となる。	①地域全体で 150 人（初期値から 1.5 倍）	地域全体で１７９人（述べ３５８人）で目標値を達成した。海洋活動ができなくても、湖岸観察やかに釣りなど、水辺の活動に親しむ団体がほぼ 9 割を占めている。事前の説明会や、現地の下見など、安全対策を講じたうえで活動に臨むことができた。
当団体のスキルアップや連携協力団体のコミュニケーションの深まりと基盤の強化が図られることにより、「体験格差」解消に向けた公益活動活性化される。	当団体と連携協力団体および活動参加者を含めた意見交換等の振返りや満足度等	連携協力団体へは、活動の目的を理解してもらい、意見交換や振返りを密にすることで、安心安全な活動を行うことができたとの評価をいただいた。

新型コロナウイルス感染症予防対策の拡充により、参加者や保護者・スタッフ等の感染予防意識や対策が深まることにより、新たな事業様式が見え始めている状態となる。	①新型コロナウイルス感染症の安全対策に創意工夫を加え効率的な事業を実施している状態	熱中症、感染対策を行った上で、活動を行うことができた。休眠預金事業の助成金で購入したテントや、スポットクーラーなどを活用することで安全に事業を実施した。

（2）アウトカム達成度についての評価

※複数のアウトカムの達成度を踏まえ、取りまとめ総合的に評価した内容を記載してください。

5－2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

休眠預金事業の活動を当初対象としていた特別支援学校の児童、生徒だけでなく、後半は不登校児支援をすることで、さらに体験格差を感じる対象への幅が広がった。不登校児支援については、以前より市内の校長先生から不登校児の受け入れ先について相談があった。市内にはいくつかの支援施設があるが、まだまだ受け入れ先が必要とのことで参入した。また学校だけでなく、障がい者施設などへの告知をしたことで、体験を希望する団体のニーズや、必要性などを知ることができた。

5－3. 事業の効率性　※補足資料参照

当施設の大型艇庫内での参加者へのコロナ対策への説明や活動のレクチャーを行うことで、実際の水面での活動がスムースに効率的に実施できるよう、スタッフで事前ミーティングを行うなど、効率的な運営に努めた。その結果、特別支援学校の教員からは、再度の活動希望が寄せられることも多くなった。また、活動に参加した子供が授業中に前に座る子供の肩をたたくなどのいたずらをしなくなったなど、子供の成長についての声も聴くことが出来た。

コロナの追加助成で購入した大型テントは屋外での説明時に熱中症対策として活用し、スポットクーラーなどを併用した。

助成金を無駄なく、活動を実施していくために、活動資料を作成するためのプリンターのインクや用紙などの消耗品、出前講座などで活用できるプロジェクターなどを購入した。施設の中の活動だけでなく、外に出張した時にも活用できる物品を購入することで活動の場を広げることができた。

6. 成功要因・課題

一番の課題は新型コロナの流行による当施設の一時的な休業による活動の停止や再開後のコロナ禍での対応であった。2020 年度から 2021 年度にかけてはコロナウイルスの影響で利用が少なく、特に特別支援学校は感染症対策に敏感であり利用を控えることが多かった。2020 年度のシーズン後半には少しずつ感染症対策をとりつつ活動に臨むことができていた。感染症についてはこちらではどうすることもできなかったが、海洋活動は外で行う活動であったため、マスクの着用については夏の暑い時期の熱中症と感染症の間で議論があったが、全員同じ方向を向いていることや、向き合う場合はマスクを付けるなど、都度状況を考えながら安全に活動を行った。そのような対策を行うことで、多人数が参加しても発症者が出ることがなく、徐々にではあるが事業を円滑に実施することができ

た。コロナをはじめ活動に対する安全対策が事業実施する際の成功要因といえる。
今後このような活動を続けていくために、新たな団体の発掘や、現場の声などを集約し幅を広げていきたい。

7. その他深掘り検証項目（任意）

参加した特別支援学校の子供たちの状況について、どのような反応があったか教員にヒアリングを行った。前述したように当施設で実施した海洋でのダブルハルカヌーの活動に参加した児童は、授業中に前の席の子供の肩を叩いたり、背中を触るようないたずらをしていたが、ダブルハルカヌーで全員一緒に漕がないとうまく進まないことがわかり、他の子供たちとの協調性が養われ、活動に参加した以降、そのようないたずらをしなくなったと教員から伺うことが出来た。このことは、体験活動の意義を伝えてくれるエピソードであると思っている。

8. 結論

体験格差解消事業としての課題は、特別支援学校の児童生徒は全員で同じ活動を行うことができるが、普通学校の特別支援学級の児童生徒は、普通級の子どもたちと同じ活動ができずに、ただ見学しているという状況が見られた。そのため、配慮事項などを聞き取り、どのような状況の人でも平等に体験できることをアピールし、活動に臨みやすい状況を作り出すことができた。また、事後アンケートをとることで、課題や団体のニーズがあったかを知ることができた。事例としては、スロープが必要な場所にスロープを設置したり、事前指導の中での説明の内容を精査することができた。
令和 5 年度はそのような意見を参考に、協力団体の意見を聞きながら参加団体へ反映していけばより意義のある活動になっていくと考えている。

8-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス			○		
（2）事業成果の達成度				○	

8-2 事業実施の妥当性

特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒を対象に海洋を中心とする自然体験活動を提供することで、規律や協力について体験的に学び、子供の成長を促すことと、静岡県西部において周辺地域の団体や学校等と連携することで地域ぐるみで子供の支援ができるようにすることを中長期のアウトカムとした。本事業により、当初の目標とした障害等のある子供たちにも健常児と同様に海洋活動が提供できたことにより、実際に子供の成長についても教員へのヒアリングで聞け、アウトカムに沿った事業を展開できたことで適切であったと判断する。

9.　提言

事業を継続していくためには、今後も様々な団体へ告知をして協力を得ながら活動を広めていく必要がある。提言としては、今回の休眠預金で購入した備品を最大限活用しながら活動を提供し、満足度をあげることができたら自走化できるのではないか、というである。
アンケートにの中で、海洋活動を行うことで子どもたちの自立心や向上心が上がったことなどが分かったため、今後も活動の必要性を知ることができた。

10. 知見・教訓

今回、障がい者施設や特別支援学校へ焦点をあてて始めた活動であったが、後半に不登校児支援を行ったことでさらに門戸が広がった。また、浜松市は外国人が多いため、外国人の子どもたちやその保護者などへも同様な活動を提供できたらと考える。現在外国人支援の団体へ声かけを始めていて、今後の取り組みを検討している。
この 3 年間の活動の中で重要だと感じたことは、これまで活動を控えていた人たち（障がい者や支援が必要な人たち）が私たちが思っていた以上に活動に対する意欲を持っていて、そのような場を提供してあげることで参加したい人たちが多くいることを知った。今後もこのような活動を提供するとともに、直接出向いて（出前講座）活動を行うことができれば、さらに多くの人が活動することができると考える。

11. 資料（別添）

提出資料

・2021 年度、2022 年度独自アンケート
・三ケ日青年の家で作成した「コロナガイドライン」
・休眠預金で作製したチラシなど　「三ケ日ファミリデー」
・新聞記事

令和3年度　海洋活動団体アンケート

静岡県立三ケ日青年の家(SHIPMAN)

※特別支援学級含む

利用日		団体名	人数	活動内容	アンケート	休眠預金対象団体(※)
4月15日	4月16日	浜松市立江南中学校		カッター	全員で規律と連携の必要性を実感できていたようでした	○
4月20日	4月21日	浜松湖北高等学校佐久間分校	22	カッター	団結して1つのことに取り組めた。	×
4月21日	4月22日	湖西市立鷲津中学校	175	カッター	力を合わせて進むカッターで、掛け声と動きが1つになった。	×
4月22日	4月23日	浜松市立中郡中学校	138	カッター	全員で協力して達成することの良さを教えることができました。	×
5月1日	5月1日	湖西市立白須賀中学校	66	カッター	1、2年生が協力してカッターを漕ぎ、苦しさや疲れなどの困難を声を掛け合い励まし合いながら乗り越えたことで達成感と感動を共有できた	○
5月11日	5月12日	浜松市立丸塚中学校	200	カッター	みんなと協力して成し遂げたという達成感を得ることができました	○
5月12日	5月13日	掛川市立大浜中学校	72	カッター	海風に向かっていく生徒たちの姿がよかった。あと　30分はやらせたかった。	○
5月18日	5月19日	浜松市立庄内中学校	77	カッター	天候に恵まれたため、よき訓練になりました。漕ぎ方がうまくなり、声を合わせて前に進むことができたこと	○
5月25日	5月26日	浜松市立神久呂中学校	78	カッター	今年度学年体制が大きく変わったが、掛け声に担任名を呼ぶなど、みんなが互いに受け入れている様子が見て取れた	×
5月28日	5月28日	浜松市立佐鳴台中学校	88	カッター	子どもたちも「大変だったけど楽しかった」と終えた後の笑顔と感動が見られました	○
6月1日	6月2日	浜松市立三ヶ日中学校	100	カッター	全員がカッターに乗ることができ、声を合わせながら漕いでいて、その一体感を味わっていた	○
6月10日	6月10日	浜松市立下阿多古小学校	139	ダブルハルカヌー	カヌー初めての子も多く、楽しく活動ができました	×
7月6日	7月7日	浜松市立光が丘中学校	35	カッター	天候はあまりよくありませんでしたが、湖上は穏やかでみんなで協力して船を漕ぐことができてよかったです	×
7月13日	7月14日	浜松市立浜名小学校	105	ダブルハルカヌー	船から降りてきた子どもたちの顔が輝いていました	×
7月16日	7月16日	新城市立作手小学校	29	ダブルハルカヌー	簡単に進むと思っていたけれど波や風で思うように進まなかったです。一生に一度しかできない体験を通して協力して活動ができた	×
10月20日	10月20日	静岡県立浜松視覚特別支援学校	9	ダブルハルカヌー	みんなで力を合わせてパドルを動かした。水が重く感じた	○
11月2日	11月2日	浜松市立南陽中学校	182	カッター	1つのことを協力してやりきった後の生徒の雰囲気がとてもよかったです	○
11月4日	11月5日	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	11	ダブルハルカヌー	パドルを漕ぎ、力を合わせて浜名湖を進むことができた。11月ということもあり、実施できるか不安だったが無事天候にめぐまれ子どもたちが貴重な体験をすることができて本当に良かった。	○

令和4年度　海洋活動団体アンケート

※特別支援学級含む

	利用日		団体名	人数	活動内容	アンケート	休眠預金対象団体（※）	
1	4月15日	4月16日	浜松修学舎高等学校	69	カッター	団結力を強め、生徒の成長が見られた。	○	
2	4月20日	4月20日	湖西市立白須賀中学校	71	カッター	日常とかけ離れた環境で協力して活動でき、良い体験ができました。終わってからの反省も積極性が見られました。	○	
3	4月21日	4月22日	静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校	25	カッター	風が強く、暑い中だったが、生徒同士で協力し合う姿が見られた。	○	
4	4月27日	4月28日	湖西市立湖西中学校	53	カッター	団結力を高めることができ、達成感を味わうことができました。	○	
5	5月10日	5月11日	湖西市立岡崎中学校	133	カッター	今までしたことがない経験ができて、生徒は満足していた。	○	
6	5月17日	5月18日	浜松市立庄内中学校	111	カッター	体力差がある中で生徒1人1人が協力し合ってオールを漕ぐことで心が1つになる体験をすることができてよかったです。成長させていただきありがたかったです。	○	
7	5月19日	5月20日	浜松市立花川小学校	18	ダブルハルカヌー	素晴らしい景色の中、楽しく協力できる活動でした。	○	
8	6月1日	6月2日	浜松市立江南中学校	55	カッター	生徒全員が初めての体験でしたが、協力して活動に参加し、達成感を得られました。	○	
9	6月2日	6月3日	浜松市立伊目小学校	42	ダブルハルカヌー	最後まで頑張って漕ぎきる体験ができました。		
10	6月7日	6月8日	浜松市立佐鳴台中学校	96	カッター	最初は上手に漕ぐことができませんでしたが、少しずつ掛け声とともに上手に漕ぐことができるようになりました。	○	
11	6月16日	6月17日	森町立飯田小学校	32	ダブルハルカヌー	みんなと協力できたこと。掛け声をみんなでかけたこと。最後までやり遂げることができたこと。	○	★
12	6月16日	6月17日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校	21	カニ釣り	カニ釣りができないと予想される児童のためにたらいにイソガニを用意してくださったこと、どの児童も間近でカニを見ることができて喜んでいた。	○	
13	6月23日	6月24日	浜松市立浦川小学校・佐久間小学校	26	ダブルハルカヌー	子どもたちにとって初めての体験でした。規律や協力の大切さを感じると同時に、楽しく活動することができました。	○	
14	6月28日	6月29日	掛川市立第一小学校	104	カッター	4艇が一斉に出ていけると思っていましたが、天候により最優先に命という考えを学びました。声が大きくなる児童からやる気が伝わってきました。	○	★
15	7月1日	7月2日	新城市立鳳来中部小学校	23	ダブルハルカヌー	思った以上にハーバーから離れたところまで行くことができた。子どもたちはとても満足そうであった。		★
16	7月5日	7月6日	島田市立島田第四小学校	85	ダブルハルカヌー	大変だったけどやり切ることができ、達成感を味わうことができていた。	○	★
17	7月12日	7月13日	浜松市立引佐北部小中学校	45	カッター	ここでしかできない体験をさせていただきました。船に乗ったことがない5年生は「乗ったら沈んでしまうのではないか」と本気で心配するくらい、生活体験だ少ない中、良い経験をさせていただきました。保護者との話の中でも「自分が学生の時に行きました！」という話が出て盛り上がりました。	○	★
18	9月2日	9月3日	おれんぢ教室	15	マレットゴルフ	すべての活動で子どもたちが笑顔でいられました。	○	
19	9月15日	9月16日	静岡県立浜北特別支援学校	44	ダブルハルカヌー	なかなか合わなかった動きが1つになっていき、ハーバーから出ていく所は生徒も教員も感動した。	○	★
20	10月5日	10月6日	静岡県立浜松視覚特別支援学校	7	ハンザヨット	児童が自分の手足で確かめながら、ひとりで乗船できて達成感が持てました。 自分でヨットを操作したことで、より風や揺れを感じ楽しさが増していました。	○	
21	10月5日	10月6日	浜松市立伐倍小学校	87	ダブルハルカヌー	小雨の中、短時間でしたが子どもたちは達成感を持てました。休んだ友達の名前を掛け声にするなどクラスの一体感を持てました。	○	
22	10月6日	10月7日	浜松市立新津小学校	129	カッター	天候が良くない中、体験ができてよかったという意見が多かった。欠席者がいたため、交代要員の児童を違う船に乗せる予定だったが、伝達がうまく行かなかった。	○	
23	10月13日	10月14日	浜松市立追分小学校	87	ダブルハルカヌー	カッター訓練とは違って、子どもたちが楽しめる活動でとてもよかったです。みんなで協力しながら船を進める中で、海の広さや空の青さ、波に揺られる気分など自然の素晴らしさを存分に味わうことができました。	○	

令和４年４月１日

「主催事業」における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

静岡県立三ケ日青年の家

静岡県立三ケ日青年の家が行う主催事業に参加を検討されている皆様におかれましては、当ガイドラインをお読みください。（参加者の方が小・中学生の場合は、保護者の方と、お読みください。）

静岡県立三ケ日青年の家では、令和４年度の主催事業も、「新型コロナウイルス感染症対策」に取り組んだうえ、事業を実施します。そのための具体的な対策をこのガイドラインにまとめています。

厚生労働省による新たな基準の公表や変更、自治体の要請の変更等に伴い、このガイドラインは適宜見直し、改訂を行いますので、ご了承ください。

１. 事業当日まで

◇プログラム内容を見直し、３密へ対応した企画構成を行います。

◇活動場所の換気や消毒を行います。

◇所員は体調管理に努めます。また、事業実施までの１４日間に新型コロナウイルス感染症の諸症状（疑い含）がある者は 事業運営に従事しません。

２. 事業中

【日帰り・宿泊共通】

◇所員、スタッフを含め参加者全員の健康状態の把握と情報共有に努めます。

◇活動場所において２ｍ程度のソーシャルディスタンスの確保に努めます。
また、研修室など屋内施設は、できるだけ広い場所を使用するとともに、定期的な換気を行います。

◇食堂利用の際には、手洗い・手指消毒、マスクの着用、ビニール手袋の着用、座席の指定などを指導します。

◇野外での炊事活動等を行う場合は、密の回避に努め、安全を確保して実施します。
また、状況に応じてビニール手袋も活用します。 調理器具・用具は使用前後に消毒を行います。

◇所外での活動の際は、有事に備えて緊急車両を用意します。

◇特に夏場はこまめな給水と休憩時間の確保をし、熱中症対策に努めます。

◇体調不良者が発生した場合は、当機構における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに沿って対応にあたります。

【宿泊を伴う事業】

◇入浴の際は、同時刻に他団体と接触がないように時間の調整を行います。

◇浴場や脱衣所では、密にならないよう指導いたします。

◇宿泊室に関しては、定員数に対してゆとりを持って配室します。

◇マスクの着用や定期的な換気などを指導します。また、使用前後には施設の消毒を行います。

３. 事業終了後

帰宅後２週間以内に新型コロナウイルス感染症と診断、または疑う症状が見られた場合、諸症状や濃厚接触者、 利用期間内の行動経路等に関してヒアリングを行います。また、参加された方々へ情報を伝えます。

静岡県立三ケ日青年の家主催事業

みっかびファミリーデー

2023.1.22 (SUN) 10:30～14:00

楽しいイベントや出店が
た～くさん♪遊びに来てね！！

ブラインドサッカー体験会

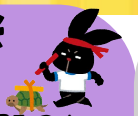
ブラインドサッカーって何だろう？そう思ったらぜひ体験してみましょう♪パラリンピックの正式種目で浜松市で合宿をしていたブラジル代表が東京パラリンピックで優勝しています！ぜひ体験を！ 場所：体育館（無料）

ボッチャ体験会

ヨーロッパで生まれたボッチャはパラリンピックの正式種目とされています！
実際にボッチャをみんなで体験してみよう！

場所：体育館（無料）

まるたの森運動会



青年の家のまるたの森を使った運動会♪
自然を楽しみながらレクリエーションをしたり
家族や友達同士で参加をしてもOK！
寒いからこそ楽しく身体を動かそう！
参加賞あります♪ 場所：まるたの森（無料）

三ケ日児童館　モルック

フィンランド（カレリア地方）の伝統的なゲーム「キイッカ」を元に開発されたスポーツ！
老若男女が気軽に楽しめる魅力的なスポーツです♪家族や友達同士で体験してみよう！

場所：研修室2（無料）

陶芸教室

陶芸教室では、はにわ作り体験ができます！
テーブルの上で行う手びねり技法で作り、
小さいお子様でも楽しめます♪
ぜひ体験してみてください！

場所：研修室1

豊橋海洋少年団

豊橋海洋少年団と一緒にパラコードアクセサリー作りをしよう！色や柄の種類が豊富なパラコードというロープを使用しアクセサリーを作ります♪

場所：研修室4

クラフトコーナー

青年の家で大人気のフォトフレーム♪
普段はできない壁掛けも手軽に作れるよ！
三ケ日青年の家の貝殻を使って素敵な
作品を作ろう！

場所：研修室4

ゼロベース三ケ日

好きな絵を描いてオリジナルの缶バッジを
作ってみよう！
友達や家族でお揃いの缶バッジを作るなど
楽しみ方がいっぱい♪

場所：本館ロビー

お菓子まき

13:40からマリーナ広場でお菓子まきをやります！受付等特にありませんので、気軽にお友達や家族で参加してみてください！
お土産にたくさんのお菓子を拾おう♪

場所：マリーナ広場（無料）

浜松学院大学　浜学連

みんなで凧に絵を描いて、凧に実際触れてみよう！普段あまり触れることのない浜松まつりで使う浜松凧、実際に触れて体験してみよう♪

場所：研修室3（無料）

聖隷クリストファー中・高等学校吹奏楽部ステージ

静岡県内で大活躍している聖隷クリストファー中学・高等学校吹奏楽部！
今年度行われた静岡県吹奏楽コンクール
西部地区大会では金賞を獲得しています！
参加して頂いた方全員を元気にそして笑顔にすること間違いなし！
ぜひご覧ください♪

演奏開始　（無料）
1部：11時30分～
2部：13時15分～

出店情報

出会いの広場に出店
い～っぱい！！

☆tetoteto
カラダとココロに優しい天然酵母パン！
おやつ・手作りジャムのお店♪

☆魚兼
100余年の歴史を持つ老舗魚屋『魚兼』の
大人気コロッケ！遠州浜名湖コロッケ大会
人気投票第1位のコロッケをぜひ味わって
みてはいかがでしょうか♪

☆LAC
旬の野菜や豆を使ったオリジナルタコス！
こだわりのタコスを販売します！

☆奥浜名湖フードカンパニー
寒い季節にぴったりの豚骨ラーメンやくるくる
ウインナー、カツサンド、マグロフランク等
美味しい食べ物が大集合！

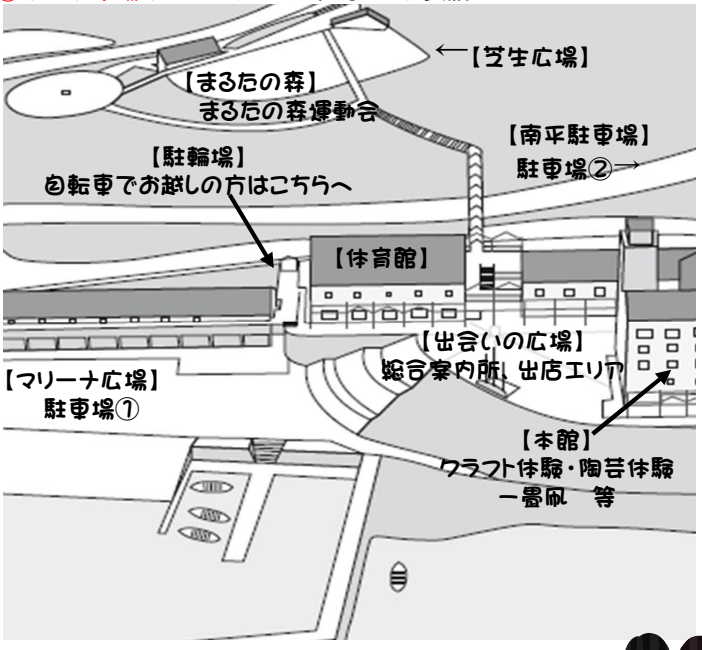
☆長坂養蜂場
昨年から登場した「ぶんぶんのベビーカステラ」
三ケ日青年の家に登場！
食べるとほのかに広がるはちみつの香りに
幸せになること間違いなし♪

☆奥浜名湖観光協会
奥浜名湖のソウルスイーツであるみそまん
が登場！奥浜名湖みそまん物語販売！

☆農家民宿cafe　coco-Rin
三ケ日で活動するcoco-Rinの手仕事おやつ！
おからのワッフルやお豆腐のマフィンなど美味しくて身
身体に良い食べ物ばかり♪

☆彩～aja
栄養豊富、血管がきれいになる、胃がもたれない！
それなスーパーフーズである米粉クレープが登場！
ふんわりモッチリしっとりの食感をぜひお試しあれ♪

アクセス
お車でお越しの方は①マリーナ広場駐車場または②南平駐車場をご利用ください（下記図を参照）



車椅子の方は本館東側ロータリーをご利用ください。
当日はスタッフが誘導します。お声掛けください。

小銭を準備してください。青年の家では両替はできません。

当日【出会いの広場 総合案内所】で詳細の時間や
会場の案内をしています。

雨天決行！
※荒天時は活動場所の変更や一部活動を中止する場合が
あります。あらかじめご了承ください。

喫煙場所は本館5階展望ロビーまたはマリーナ広場南側を
ご使用ください。

トイレは本館1F、2F、5F、マリーナ広場のトイレをご使用
ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

- 来場される一週間前から、毎日体温及び体調を確認してください。
- 当日の朝に体温が平熱より高い場合や風邪等の症状がある場合は、ご来場を控えていただくようお願いします。
- 身体的距離が十分に確保でき、会話がほとんどない場合はマスクは不要です。
- 屋内で人が多く集まる場所では、マスクを着用してください。
- 来場中に体調の悪化を感じた場合は無理せず、速やかに所員へお知らせください。
- 来場後2日間は、毎日健康観察を実施し、体調確認をしてください。万が一、風邪等の症状がある場合には、速やかに医療機関を受診するとともに本所へご一報くださるようご協力ください。

静岡県立三ケ日青年の家
〒431-1402
浜松市北区三ヶ日町都筑523-1
TEL　053-526-7156　ＨＰ　http://www.mikkabi-mfp.jp/

あそびにきてね

県立三ケ日青年の家

体験活動で自立支援

不登校の児童生徒受け入れ

浜松市北区三ケ日町の県立三ケ日青年の家が本年度から、不登校の児童生徒を対象にした支援活動に取り組んでいる。学校に通えなくなった子どもの居場所をつくるとともに、自然体験などを通じて自己肯定感やコミュニケーション能力を高め、学校復帰や社会的自立を支えていく。

手こぎボートを体験する男子児童（中央）＝浜松市北区三ケ日町の県立三ケ日青年の家

「ウナギは見たことがあります」。13日、小学校高学年の男子児童が、同施設で浜名湖の生き物についての環境学習に臨んだ。児童は10月中旬から週2日のペースで同施設に通っている。座学だけでなく、手こぎボートや釣りなどの海洋体験、卓球、粘土細工などにも取り組んできた。

子ども1人につき、所員と地域ボランティアの2人以上で指導に当たる。運動や工作、自然や生き物など、それぞれの子どもの興味に合わせた体験を展開できるのが同施設の強み。御園黒所長は「社会教育施設の役割には学校教育、家庭教育が含まれる。誰でも平等に利用できる施設として、子どもの教育を支える立場でありたい」と言葉に力を込める。

当面は浜松市北区の児童生徒が対象で、火曜から金曜の午前9時から午後2時に受け入れる。相談、問い合わせは同施設の袴田昌弘副所長〈電053（526）7156〉へ。

（細江支局・大石真恵）

静岡新聞（夕刊）　1/16　（第三種郵便物認可）

障害児らも 海洋体験を

「囲い網」

浜松市北区の県立三ケ日青年の家は2023年度、障害やけがなどで配慮が必要な子どもたちに向けて、浜名湖の魚などの捕獲を楽しむ新プログラム「囲い網」の運用を開始する。施設内のマリーナに特製の網を仕掛けて〝追い込み漁〟を体験する取り組み。カヌーやカッターボートなど青年の家が従来行ってきた活動と同様、幅広い参加者に視覚や触覚を通じた海洋体験の機会を提供する。

三ケ日青年の家（浜松） 来年度導入

囲い網の使い方を確認する県立三ケ日青年の家の所員ら
＝2022年12月下旬、浜松市北区三ケ日町

見て触って 親しんで

「魚を傷つけずに取って湖に戻すことが大前提」。2022年12月下旬、所員向けの説明会。特注の網を製作した村上漁網店（同区細江町）の村上孝さん(74)が強調した。マリーナの湖底をたたいて魚を追い、仕掛けた網を岸側に移動させて囲い込む。網と平行に進む魚の習性を利用するという。県に特別採捕許可を取り、地元漁協の理解も得た。

多くの学校向けに海洋活動を展開する青年の家。ただ、視覚や聴覚に障害のある児童生徒や車いすの子どもたちは、通常の活動に参加することが困難なケースがあるという。これまではエビの観察などで対応してきたが、より密度の濃い体験をしてほしいと囲い網の導入を決めた。

参加する子どもたちは所員らと協力して網を湖に沈め、魚を追い込む作業などに一緒に取り組む。捕獲した魚は観察したり手で触ったりして、海洋に親しんでもらうという。学校だけに限らず、障害者施設などの受け入れも可能という。

同青年の家は4月の運用開始を目指し、所員に対して網の扱い方や捕獲、魚の知識などの研修を進める。御園崇所長(46)は「体験の格差をなくし、誰でも取り組めるプログラムにしたい」と話す。

（細江支局・大石真聖）